

患者さんを家族のように愛する・いい医療をより多くの患者さんへ

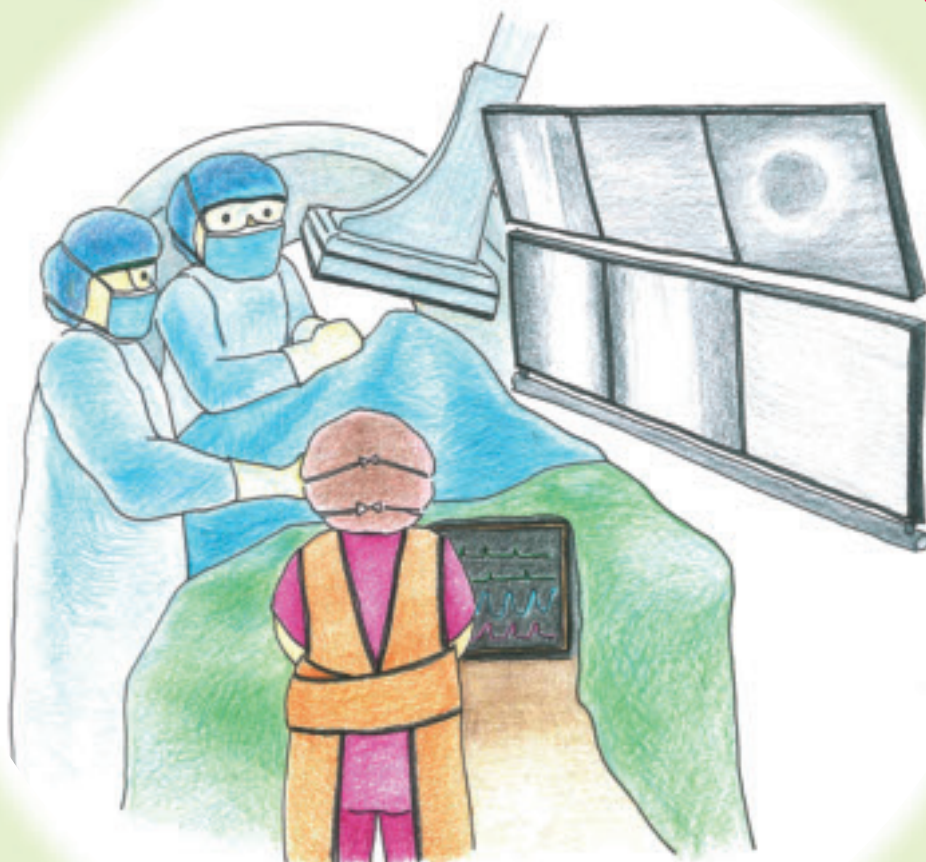
奈良県西和医療センター情報誌

特集号

ファミリー

～みむる～

復刊
第4号
平成29年
5月



ご挨拶

新任医師紹介

診療科紹介:循環器内科

病気のはなし:心房細動とは?

各部門情報:リハビリテーション部

西和医療センターだより

公開講座案内



地方独立行政法人 奈良県立病院機構

奈良県西和医療センター

Nara Prefectural Seiwa Medical Center

病院長からご挨拶



地方独立行政法人奈良県立病院機構
奈良県西和医療センター
院長 横山和弘

今回の「ファミリー～みむろ～」第4号は盛りだくさんの内容となっています。

本年4月より渡辺明彦、川手健次の両先生を副院長としてお迎えし、奈良県西和医療センターの外科系は大きく充実します。

渡辺明彦先生は、奈良県を代表する消化器外科指導医で、消化器外科手術全般、とくに食道がんの手術を得意とされ、これを契機に消化器内科・消化器外科が協力する消化器病センターの立ち上げを考えているところです。

一方、川手健次先生は、人工股関節置換術を中心とした手術のスペシャリストで、平成29年4月1日より新たに「人工関節センター」を院内に設置しました。同時に整形外科部長として寺西朋裕先生が加わり、整形外科の診療体制の飛躍的な充実を目指します。

今回の診療科紹介は、循環器内科です。当院の循環器内科は、昭和54年4月の病院開設時より現在に到るまで常に時代の最先端の治療技術を携えて、患者さんの治療に当たってきました。心筋梗塞、狭心症、不整脈等に対する最近の内科的治療が紹介されています。これらをより安全に行なえるのは、平成5年10月に開設した心臓血管外科のバックアップがあると言っても過言ではありません。優秀な循環器内科医と優秀な心臓血管外科医が密接に連携して患者さんを治療できる循環器病研究センターの存在が当院の最大の強みと考えています。

今回の病気の話は、心房細動という不整脈の一種です。脳卒中など重篤な病気を引き起こす可能性があるが故に、治療が必要なのです。循環器内科が治療に最も力を入れている分野の一つです。

今回のファミリーは情報量が多く「特集号」としてしています。少しでも地域住民の皆様方の健康に貢献できれば幸いです。

新副院長からご挨拶



地方独立行政法人奈良県立病院機構
奈良県西和医療センター
副院長 渡辺明彦

このたび平成29年4月より奈良県西和医療センター副院長に就任いたしました渡辺明彦です。私は奈良市にございます奈良県総合医療センターにおきまして、約20年間、がんの集学的治療（手術、化学療法、放射線治療、緩和ケアなど）に従事してまいりました。

総合医療センターは西和医療センターとともに同じ経営母体である奈良県立病院機構に属しております。今後は両センターの「連携」や「融合」を合い言葉に、お互いの長所をさらに発展させ、弱いところを補っていけるように交流させることが私に与えられた使命と考えています。

西和・外科の得意分野は腹腔鏡を用いた「身体に優しい手術」でありますし、総合・外科の得意分野は食道がんや

専門医

日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

専門分野

消化器外科全般
集学的がん治療
上部消化管外科
腹腔鏡外科

肝胆膵系のがんなどの「高難度手術」であります。これらの手術を行う際に、お互いの技術指導医を派遣し合うことによって、さらにレベルの高い医療が提供できると考えています。

西和医療センターの診療理念「いい医療をより多くの患者さんへ」の実現に向けて努力してまいりますので、皆様のご指導ならびにご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



新副院長からご挨拶



地方独立行政法人奈良県立病院機構
奈良県西和医療センター

副院長 整形外科 川手健次

はじめまして。4月1日から赴任しました整形外科の川手です。

竜田で生まれ、昭和58年に奈良県立医科大学整形外科学教室に入ってから数病院で勤務したのち平成元年から3年間この病院の前身である三室病院でお世話になり、アメリカ留学後22年間奈良県立医科大学で勤務しこのたび再度お世話になることになりました。どうぞよろしくお願いたします。

専門は股関節外科、骨再生医療ですので人工股関節について簡単に書かせていただきます。

人工股関節は約60年前にイギリスから始まり世界に広まりました。しかし手術してからしばらくするとゆるんでくる症例が大量に出現し、そのため手術後10年から15年たつと入れ替えが必要といわれ、人工股関節置換術は65歳にならないと手術はできないとされてきました。しかし私がハーバード大学に留学したころから研究が進み、軟骨のかわりにあたる部分

専門医

臨床研修指導医
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会指導医
スポーツ医

専門分野

股関節外科、人工関節

が強化され、現在では何十年ももつようになりました。しかし人の動きは大変複雑であることや、体重、使い方によって（激しい運動をしたり重い物をよく持ち歩いたり）人工股関節のもつ期間はかなり変わってきます。人工股関節の目標はあくまで不便のない日常生活を送っていただくということです。

最近では日本でも年間約6万件の人工股関節がされており今後も増加することが予想されます。平均寿命は延び続けていますが、人のお世話にならず自分で歩いて不自由なく暮らすことができるという意味の健康寿命が大切です。手術によって苦痛から解放され快適な生活を送っていただくことを願ってこのたび当院では“人工関節センター”を開設させていただきました。手術は患者さんのよくなろうという意志と病院スタッフ全員の協力と手術後の使い方によってはじめて成功いたします。退院してご近所の方にきれいに歩くようになったと褒めていただいたり、股関節が悪かったとは思えないと驚かれたりなるよう願ってがんばりたいと思います。

新任医師紹介

平成29年4月付け

整形外科部長



てらし ともひろ
寺西 朋裕

専門医・専門分野

- ・日本整形外科学会専門医
- ・股関節外科
- ・人工関節

産婦人科医長



こいけ なつき
小池 奈月

専門医・専門分野

- ・日本産科婦人科学会専門医
- ・日本産科婦人科内視鏡学会会員
- ・婦人科腫瘍学会会員

外科医員



たかぎ ただたか
高木 忠隆

専門医・専門分野

- ・日本外科学会会員
- ・日本消化器外科学会会員
- ・消化器外科全般

循環器内科医員



やの ひろき
矢野 裕己

専門医・専門分野

- ・日本内科学会認定内科医
- ・日本循環器学会会員
- ・日本不整脈学会会員
- ・内科全般および不整脈学

腎臓内科専攻医



たさき ひかる
田崎 光

専門医・専門分野

- ・日本腎臓学会会員
- ・BLS、ACLSプロバイダー
- ・透析、および一般内科腎臓内科

循環器内科専攻医



とよかわ のぞみ
豊川 望

専門医・専門分野

- ・日本内科学会会員
- ・日本循環器学会会員
- ・内科全般 および救急医学

麻酔科専攻医



おがわ ゆうき
小川 裕貴

専門医・専門分野

- ・麻酔科標榜医
- ・日本麻酔科学会認定医
- ・麻酔科全般

臨床研修医

初期臨床研修医



おにし まさてる
大西 将央

初期臨床研修医



おだ ゆうき
小田 侑希

初期臨床研修医



そが まさひろ
曽我 真弘

初期臨床研修医



はね あやか
羽根 彩華

初期臨床研修医



みぞはた ひでき
溝畑 英樹

初期臨床研修医



みたに かずひろ
三谷 和大

初期臨床研修医



わたなべ かずき
渡部 一貴

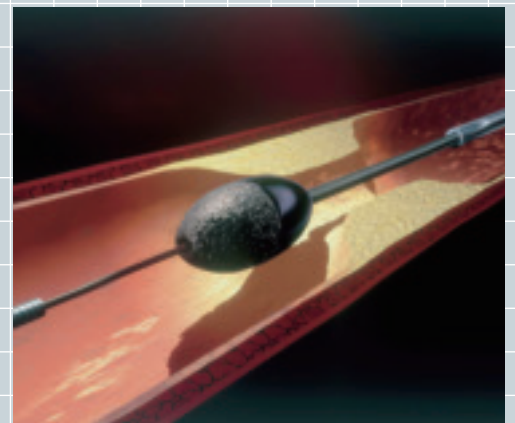
循環器内科

<診療内容全体について>

奈良県西和医療センターの循環器内科では、心臓や血管のカテーテル治療や不整脈に対するカテーテルアブレーション（不整脈を高周波で治すカテーテル手術）、さらにはペースメーカーや植込み型除細動器の治療を数多く施行しており、奈良県全域に加えて他府県からの紹介患者さんも診療させていただいています。

<心臓カテーテル治療>

西和医療センターは、トップレベルのカテーテル治療技術を有しており、通常のカテーテル治療を行っている医療機関では治療困難とされるケースでも、当院ではロータブレード（ダイヤモンドで血管内を磨いてきれいにする方法）やエキシマレーザー（レーザー光線で血管内の血栓や組織を蒸散させてきれいにする方法）などを駆使して、冠動脈（心臓の血管）の動脈硬化によってできた狭いところ（狭窄）や詰まっているところ（閉塞）部分をカテーテルで治すことができます。



ロータブレード

<心臓血管外科と密接に連携しています>

当院には心臓血管外科のスタッフが揃っており、冠動脈バイパス手術（天皇陛下が受けられた手術）の方がより安全で確実と考えられる場合は、外科治療も選択可能です。弁膜症や大動脈瘤でも心臓血管外科手術が有効です。熱心な心臓外科医によって、丁寧な手術ときめの細かい術後管理を提供しています。

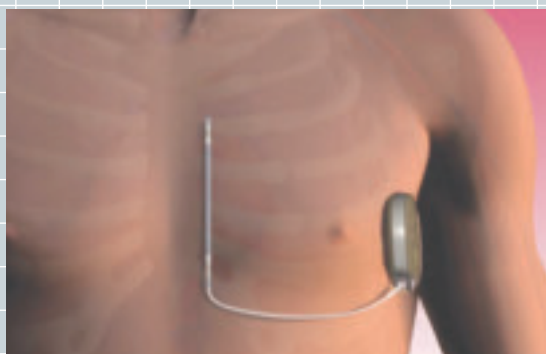
<不整脈に対するカテーテルアブレーション>

巨人の元監督、長嶋茂雄さんのように不整脈（心房細動）が原因で脳卒中になってしまう人が後を絶ちません。抗凝固薬という心臓内の血栓ができにくくするお薬も重要ですが、高周波カテーテルアブレーションという、不整脈を直接治してしまう方法があります。当院には、アブレーション治療目的に多くの患者さん（2014年度は248人の患者さんで、関西地域の国公立施設で5位の症例数）が集まって来られますが、お一人お一人に一番合う方法で不整脈を治療するよう心掛けています。

<不整脈治療のICD / S-ICD植込み手術>

ポックリ病をご存じですか？昔から心臓が原因で突然亡くなってしまう病気がありました。現代では、ブルガダ症候群やQT延長症候群など様々な心臓突然死を来す疾患が診断できるようになりました。そのような特殊な病態でなくても、心機能が極端に悪い患者さんにも心室頻拍や心室細動が生じることがあります。植込み型除細動器（ICD）という、ペースメーカーの親玉みたいな機械を胸に入れることで、突然死につながる危険な不整脈出現時に電気ショックによってもとに戻してくれる治療が可能になります。さらに最も新しい治療として、心臓や血管内にリード線を入れない「完全皮下植込み型除細動器S-ICD」の手術が全国の先端的病院で開始されています。「S-ICD治療が受けられる病院」として医療機器メーカーがホームページ上に公開しています。
(<http://www.sicd.jp/hospital/>)

2017年4月現在、大阪府で8施設、京都府と滋賀県が各1施設、奈良県は当院のみ1施設が掲載されています) もちろん、ICDだけでなく、通常のペースメーカー手術や心不全治療目的の両心室ペースメーカーの手術も行っています。



病気の話

心房細動に対する カテーテルアブレーション治療

心房細動とは？

心房細動という不整脈では、心臓のなかの心房という部屋がぶるぶる細かく震えるような状態になり、血液がうっ滞することで、左心房のなかの洞穴部分（左心耳といいます）に血栓（血のかたまり）ができてしまい、それが脳や全身の血管に飛んでゆき、そこで血管を詰まらせてしまうことで脳卒中（主に脳梗塞）など重篤な病気を引き起こします。

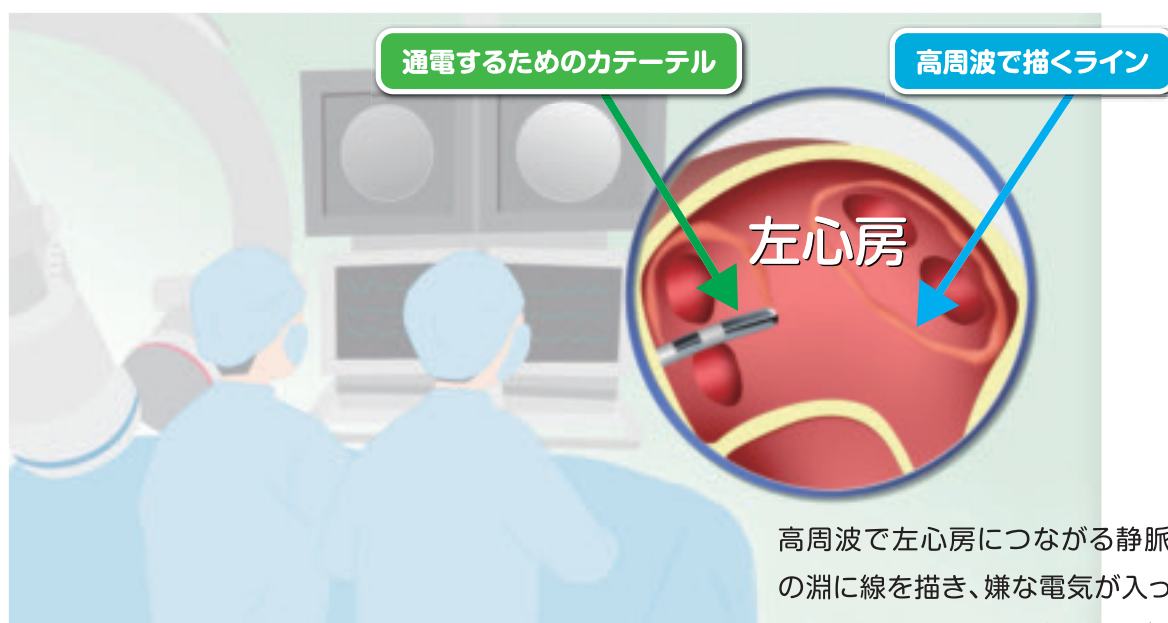


心房細動は、左心房につながる静脈の基部から嫌な電気が左心房内に侵入してくることで生じ、心房が震えるような動きになってしまいます。その結果、左心房の中に血液のよどみができ、血栓という血の塊ができてしまいます。

あなたが心房細動という不整脈を指摘されたら・・・

- 1 まず、心不全がないか、血圧が高くないか、年齢はどうか、糖尿病はないか、過去に脳卒中になりかけたことはないかなどの病歴から脳卒中にどれくらいなりやすいかを外来診察の中で主治医が評価します。
- 2 その結果、血液をさらさらにする薬（抗凝固薬）を服用した方がよいと主治医が判断した場合にはお薬の服用をおすすめします。
- 3 心房細動がいつから始まっているのか、不整脈のない正常なリズムに戻る可能性があるのかなどを外来診察の中で評価して、薬物治療かカテーテルアブレーション治療が可能かどうかを判定します。（カテーテルアブレーションとは心臓のなかに高周波で良くない電気を通さないような線を引き、不整脈を根治させる治療法です）

- 4 治療が可能と判断され、患者さんがご希望された場合には、平均 4 日間程度（患者さんによって様々です）の入院でカテーテルアブレーション治療を受けていただき、もとの正常なリズムに戻します。（当院の心房細動に対するカテーテルアブレーションは、全身麻酔で行いますので、多くの患者さんは知らない間に終わったと言われます）
- 5 もとのリズムに戻っても、抗凝固療法は原則的には続けたほうがよいですが、場合によっては服用を中止できる場合もあります。
- 6 一定の確率で心房細動の再発がありますが、2 回目の補足的なアブレーション治療で正常なリズムを維持できることが多いので、再治療する場合があります。
- 7 その後も地域の診療所の先生とも協力し、外来診療のなかで、不整脈の再発がないかチェックし、抗凝固薬を継続した方がよい患者さんの場合は、処方 continues。
- 8 正常な調律に戻る確率は、個人差がありますが、動悸・息切れの症状が良くなり、脳梗塞や認知症、心不全のリスクを減らすことができます。



高周波で左心房につながる静脈の淵に線を描き、嫌な電気が入ってこないようにすることで心房細動を治す方法が、カテーテルアブレーションです。



当院では、最先端の不整脈治療を提供しています。どのような治療法がベストなのかはそれぞれの患者さんで異なります。お気軽にご相談ください。



リハビリテーション部

心臓リハビリテーション

当センターでは平成27年4月より「心臓リハビリテーション」という、心臓病に対して効果的な運動と看護指導を中心とする包括的リハビリテーションプログラムを実施しています。

対象の方は、心筋梗塞・狭心症・心不全・大動脈解離等の方で、主治医が運動可能と判断された方です。



心臓リハビリテーションの内容

基本は有酸素運動です（ウォーキングや自転車エルゴメーター）。運動の強さは、終了時に軽く汗ばむ程度の運動です。当センターでは心電図や血圧測定など行いながら安全に、楽しく運動ができます。週1回1時間を基本に、約半年間参加いただけます。（疾患により延長も可能です）



準備体操



有酸素運動



筋力トレーニング



整理体操

心臓リハビリテーションの効果

- ① 運動能力が改善し安全に楽に動けるようになります。
- ② 心臓への負担が軽減し、狭心症や心不全の症状が軽くなります。
- ③ 動けるようになることで、自信がつき不安やうつ症状が改善します。
- ④ 血管の機能や自律神経の働きが良くなります。
- ⑤ 血糖値、肥満、高血圧、脂質異常症などを予防、改善します。
- ⑥ 心筋梗塞の再発や突然死等の心臓の事故が減り、死亡率が減少します。



当センターでの心臓リハビリテーション実施をご希望の方は、かかりつけ医の紹介状をお持ちの上、当院の循環器内科を受診して下さい。循環器内科医師が心臓リハビリテーションの必要性を判断致します。

●西和医療センター便り●

ボランティア・職員の交流会を 開催しました

3月8日(水)にボランティアの方々と交流会を行いました。当院では日頃からボランティアの方々にご協力いただき、患者さんへの対応を行っています。患者さんの来院時に玄関先で笑顔で迎えていただき、案内や誘導をしていただいています。また職員だけでは行き届かない細かな部分を支えていただいています。ボランティアの方の意見を聞くことで、私たちが気づかないところを教えていただける貴重な機会となっています。



地域医療支援病院あり方検討 委員会を開催しました

当院は地域医療支援病院として、地域の医療機関と協力して住民の皆さんの健康を支えています。地域医療支援病院はその取り組みについて年に4回、支援病院としてのあり方について検討会を行っています。写真は3月16日に開催した時の様子です。



消火避難訓練を行いました

平成29年3月8日(水)に、当院から出火した想定で避難誘導訓練を行いました。消火訓練だけではなく、入院されていてご自分では動くことのできない患者さんを、担架を使って避難する訓練も行っています。万が一に備えて、院内の様々な職種が協力して、患者さんの安全を守るために真剣に取り組みました。



地域密着型住民公開講座「地域で守るみんなのからだ」を開催しました

場所：安堵町福祉保健センター

時間：4月13日14時～

講演内容と講師

「高血圧とクスリの話～先生、このクスリいつまで飲むんですか?～」

安堵町 山内醫院 院長 山内優美 先生

「放っておくと脳梗塞につながるこわい不整脈」

当院 循環器病研究センター循環器内科医長 藤本源

※100名をこえる安堵町の住民の方々の御参加をいただき、盛況な講演会となりました。

ありがとうございました。今後も皆様のご意見を聞きながら、公開講座を開催していきます。



●公開講座案内●

地域の方対象 公開講座

7月22日(土) 14:00~15:30

西和医療センター 住民公開講座

場所:リーベル王寺

講演テーマ・講師

「関節の痛みと
その和らげ方」

西和医療センター
川手 健次 副院長

「人工関節のQ&A」

西和医療センター
整形外科
寺西 朋裕 部長

足の付け根や
膝が痛くないですか。
そんな悩みを
解決します!



医療職の方 対象の講座

地域医療連携講座(当院にて)のお知らせ

5月18日(木) 外科医師

急性腹症

6月22日(木) 腎臓内科医師

人工透析の適応と管理

7月20日(木) 循環器内科医師

心臓のMRI検査

※変更の可能性も
あります。
詳細はお問い合わせ
下さい



<当院へのアクセス>



病院前道路からのview

患者支援センターよりお知らせ

患者支援センターでは4月より新メンバーで業務を行っています。地域医療支援病院として、地域と力を合わせて、これまで以上に地域包括ケア・在宅医療の推進にも力をいれて取り組んでいきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。



「ファミリー」は年に4回の発刊を予定しています。地域の皆様の健康に役立ち、親しまれ愛される紙面作りをめざしていきます。

住民の皆様に役立つ情報・当院との連携についてなど、地域の登録医の先生方の投稿をお待ちしています。詳細は地域医療連携室へお問い合わせください。

発行・編集

奈良県西和医療センター情報誌

発行日 平成29年5月1日

編集者 地方独立行政法人奈良県立病院機構

奈良県西和医療センター 患者支援センター

〒636-0802 生駒郡三郷町三室1-14-16

TEL:0745-32-0505(代表) FAX:0745-31-1354



表紙作画: 山下佳代乃